

Showa Denki Group

2019 Round.1 TWIN RING MOTEGI



J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Infomation 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦 TWIN RING MOTEGI SUPERBIKE RACE

開催日：2019年4月6日(予選) 4月7日(決勝)
栃木県・ツインリンクもてぎ(1周=4.801379km)
観客動員数：13,800人(2日間合計)

J-GP2クラス #71 榎戸 育寛

マシン：HARC-PRO.HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE
予選：6番手(タイム：1分54秒545)
決勝：5位

ST600クラス #71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：16番手(タイム：1分55秒449)
決勝：DNF

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：15番手(タイム：2分16秒168)
決勝：決勝：11位(国際クラス：6位)



弊社広報社員ライダー

J-GP2クラス #634 名越 哲平(写真中央)
J-GP2クラス #71 榎戸 育寛(写真右)
ST600クラス #71 上原 大輝(写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



■第1戦は弊社社員ライダーの名越哲平がポール to ウィン!
名越 哲平 J-GP2クラス 予選：P.P. / 決勝：優勝



【71Project Riders】

■JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda

■ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki

■J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido

■JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama

■J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita

■JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクンナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round.1 TWIN RING MOTEGI

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



榎戸育寛が J-GP2 クラスに参戦！ 3 台体制となった 2019 年



2014年にリスタートした昭和電機の全日本ロードレース選手権、第二世代プロジェクトも6シーズン目を迎えた。今シーズンは、「Showa Denki Group」の略称である「SDG」をチーム名に入れ「SDG Mistresa RT HARC-PRO.」としてエントリー。ライダーは、新たに広報社員選手として榎戸育寛が加入。HARC-PRO. HP6q を駆り J-GP2 クラスに参戦。そして昨年に引き続き ST600 クラスに上原大輝、MFJ CUP JP250 国際クラスに赤間清がフルエントリーする。ゼッケンは、2年目となる「71 プロジェクト」にちなみ3人とも「71」をつける。



昨年に続き、今年も栃木県・ツインリンクもてぎが開幕戦の舞台となった。前週に行われた事前テスト、そしてレースウィークも天候が安定し、全セッションドライコンディションで行われた。

今年は JP250 クラスも木曜日から走行があり、マシンセットを進めて行く。金曜日は気温が上がリ、4月下旬の暖かさとなつてこともあり、ツインリンクもてぎ場内の桜も一気に開花。土曜日、日曜日でも少し気温は下がったものの、絶好の観戦日和となつていた。

公式予選も上々のコンディションとなり各ライダーは、渾身のタイムアタックを見せて行く。J-GP2 クラスの榎戸は、チームはもちろん、マシンもタイヤも変わり、その特性をつかむことに重きを置いていた。試行錯誤を繰り返しながら、セッション終盤に1分54秒545をマークし6番手につけた。ポールポジションは、広報社員の名越哲平が獲得している。ST600の上原は課題にしていたセッション終盤でのタイム出しが、うまくできるようになり自己ベストの1分55秒449を記録し16番手。JP250クラスの赤間は、15番手につけた。



土曜日に決勝レースが行われた JP250 クラスは、10周で争われた。赤間は、スタート直後の混戦を抜けオープニングラップは、15番手で戻ってくる。その後、ポジションを上げて行くが、マイナートラブルが発生し、だましだましの走行となって行く。それでも及川選手との一騎打ちの11位争いを展開。後方から様子を見ながら周回を重ね最終ラップに出ると11位、国際クラス6位でチェッカーフラッグを受けた。



日曜日は、雲が多めながら観戦には快適なコンディション。午後一番に行われた J-GP2 クラスの決勝。22周の長丁場で争われたレース、榎戸は、スタートで、やや出遅れ7番手でオープニングラップを終えるが、そこからペースアップし2周目に6番手、7周目に5番手に上がると、前を行く岩崎選手を追う。そして、そのテールを捕らえると12周目に岩崎選手をパスし4番手

に浮上する。そこからセカンドグループをリードするが、レース終盤になるとペースを上げられない状態となり、19周目に岩崎選手に抜き返されてしまう。そのまま背後に迫る小谷選手を抑えきり4位でゴールした。名越は、オープニングラップからレースを引っ張る走りで見事に開幕戦を制している。ST600の上原は、2周目の1コーナーで転倒リタイヤと悔しい開幕戦となった。



■榎戸育寛コメント

「まずは多くの皆さんのおかげで SDG Mistresa RT HARC-PRO. で J-GP2 クラスを戦えることを感謝いたします。HP6q はすごくポテンシャルのあるマシンということは、最初に乗ったときから分かったのですが、今回のレースは、なかなか車体バランスも自分自身のライディング面も噛み合わないままでした。ただ、レースを終えたことで、いい手応えもあるので、次戦はトップ争いに絡んでいきたいと思っています」

■上原大輝コメント

「今年も SDG Mistresa RT HARC-PRO. の一員として全日本 ST600 クラスに参戦できることに感謝いたします。レースは、スタートは決まっていたのですが、2周目の1コーナーで進入ハイサイドで転倒してしまいました。2年目のシーズンなので結果を出したかったのですが…。2年目なのでライディング面、マシン面でも ST600 のことを理解できるようになってきましたし、何よりトップチームで走らせてもらっているというチャンスを生かすためにも次戦は常にトップ6以内にいるのが目標です」

■赤間 清コメント

「昨年と比べると JP250 のライディングが分かってきて、すごく順調にレースウィークが進みました。レースでマイナートラブルが出てしまったことが悔しいところですが、いい手応えを感じることができた開幕戦になりました。次戦は、もっと上位で走ることができると思うので引き続き応援よろしく願いたします」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで